

第15回福山駅前デザイン会議を開催

日時：2023年（令和5年）2月16日（木）15時00分～17時00分
場所：福山市役所 60会議室

今回のデザイン会議では、昨年から募集していた「福山駅周辺再生プロジェクトの愛称」が発表されました。意見交換では、「福山駅前広場整備基本方針（案）について」を議題として、基本方針（案）で示す「理念」や「方針」のほか、駅周辺のエリア価値を戦略的に高めるための公共空間の形成や官民連携によるまちづくりについて、構成員のみなさまと議論を行いました。

福山駅周辺再生プロジェクトの愛称について

- 駅周辺の情報発信を効果的に進めていくため、取組全体を表す、分かりやすく親しみやすい愛称を募集。
- 作品の公募を約1ヶ月間行い、市内外から1,156点の応募がなされた。この中から、デザイン会議の構成員の意見も参考にしながら9点を最終候補として選定。
- 最終候補に対して投票を行い、3,000件を越える投票の結果、「ふくまち」に決定。
- 「福山の街」、「福を待つ」、未来への希望を乗せた新しい風が「吹く街」の意味が込められている。
- HPやSNS、各イベントのチラシ等で幅広く活用していく。
- 本プロジェクトは長期間であり、プロモーションのやり方等、課題はあると思うが、市民を巻き込みながら情報発信する方法を検討していくとよい。
- 情報発信が大事。円滑に進めていくために福山駅周辺再生推進課と情報関係部署との連携が重要。



福山駅前広場整備基本方針（案）について

1 基本方針（案）の内容について

- 協議会では、全面的に都市の広場機能を生かすべきという意見があったというよりは、そのような意見が多く出されていたので、基本方針の表現を修正した方がよい。
- 「分かりやすさ」や「使いやすさ」というキーワードでの切り口もある。

（次頁に続く）

2 基本方針（案）を踏まえた周辺のあり方など

- 周辺の商店街のあり方は駅前広場のあり方と関係性がある。駅前広場だけでなく、周辺の商店街がどうあるべきかという議論が必要。
- 単に滞在空間があることよりも行きたくなるかどうかが大事。駅前広場に周辺の取組が関わってくると、色々な人が様々な価値観で使うようになる。駅前広場の周辺との連携が大事になるだろう。
- 駅前広場の考え方が関係者だけでなく、市民にも共有されることが重要。市民を巻き込む情報発信の方法を検討するとよい。
- バス旅行者にとって乗場が分かりにくい。送迎バスの運用方法を考えることが必要。
- 特定用途誘導地区や駐車場配置適正化区域の指定についても、駅前広場に係る都市交通政策とセットで検討していくことが必要。
- 次世代交通のあり方を考えるとよい。次世代交通は今後加速度的に変化し、駅前広場の完成時期には大きく変化していることが想定される。将来を予測しながら、適正なキャパシティや使い勝手を検討していくことが必要。



3 駅前広場の今後の検討

- 駅前広場外にバスターミナルを配置するという意見も出ており、実現していくための本格的な議論を始めるべき。民間も実現する方法を本気で考え、官民連携で取り組むことが必要。
- 伏見町には地権者が多くいるため、駅北口広場も候補地として考えられる。駅北口広場の場合は、城に対する景観的配慮も必要となるため、市が開発に関わることができる体制づくりを検討すると良い。また、駅北口広場にバスターミナルをつくる場合は、駅南側に降りる人のためのバス停も必要になるだろう。例えば、伏見町の土地を使用して、一旦降りることができるバス停を作ることを検討すれば、伏見町の開発の動機づくりにもつながる。
- 福山駅前再生ビジョンのイラストでは、駅前は全面広場化になっている。広場の周りには様々なコンテンツが広がっており、人がにぎわっている様子が描かれている。ビジョンの実現にバスターミナルが必要であれば、伏見町としても協力したいと考えている。
- 運営の仕組みづくりは最も重要。設計よりも先に運営の候補者が決まらないと今後の議論が進まないだろう。
- 今後は実験をしてみる事が大事となる。例えば、2024年度に北口広場を使ったバスターミナル化の実験と運営組織の組成に向けた駅前広場の環境空間の使い方の実験を行うことを目標に、2023年度に実験の準備をしてみようか。そうすることで、2025年度以降に運営者が決まった状態で設計を行うことが可能となる。
- 2023年度に、運営に関わりたい人を複数決め、ある程度の期間実験を行ってもらい、市民に評価してもらいながら運営者を決めていくやり方もあるだろう。